

「脱炭素ちがさき市民会議」第4回 会議録

1. 概要

日時 : 2024年11月16(土)13:00~17:00

会場 : 茅ヶ崎市役所 本庁舎4階会議室

参加市民 : 28名

全体ファシリテーター : 大江結花(一般社団法人環境政策対話研究所(IDEP))、村上千里(同)

2. 目標(ゴール)

・アウトプット(市民会議の具体的な成果物・成果目標)

-脱炭素で住みよい茅ヶ崎「脱炭素ちがさき」のイメージと、それを実現するために、誰が何をするのか、協働できることは何か、のアイデアについて、おおむね合意できている

・アウトカム(市民会議終了後の参加市民の状態)

-提案に自分の思いや考え、意見を出せて「楽しかった!」「このアイデアを形にしたい」と思っている

3. 実施概要

本会議は以下のような構成で行われた。

	進行:大江	進行:村上
第1ラウンド	C:食と製品	B:住まいとエネルギー
	CとB:全体共有+質疑応答、意見交換	
第2ラウンド	A:移動	D:情報・教育
	AとD:全体共有+質疑応答、意見交換	
第3ラウンド	A~D混合グループ:提案を形にするために取り組んでみたいこと	

<タイムスケジュール>

時刻	内容
13:00	オリエンテーション、Day3の振り返り
13:10	<第1ラウンド> チェックイン
13:20	グループワーク①(B,C)
13:50	全体共有、質疑応答(B,C)
14:20	休憩、席の移動
14:30	<第2ラウンド> グループワーク②(A,D)
15:10	全体共有、質疑応答(A,D)
15:38	横断的テーマについての説明と全体ディスカッション
15:45	休憩、席の移動(A~D混合のグループへ)
15:55	<第3ラウンド> チェックイン:「いちおしのアイデア」の紹介

	ガイダンス:第4回会議終了後のスケジュールの説明
16:13	グループワーク③提案を形にするために取り組んでみたいこと
16:28	全体共有
16:40	チェックアウト
16:45	閉会の挨拶 ・柳下元邦氏(茅ヶ崎市環境部環境政策課課長) ・古知屋恵子氏(脱炭素ちがさき市民会議実行委員) ・佐藤良三氏(脱炭素ちがさき市民会議実行委員)
17:00	写真撮影、終了

(1) オリエンテーション

全体ファシリテーターの大江結花から第1回から第3回までの振り返り及び、今回の目的の共有が行われた。統合案の取りまとめにご協力いただいた参加者に対し、深く感謝の意を表するとともに、全4回にわたる会議の締めくくりとなる本日が有意義なものとなることを期待する旨を述べた。

(2) チェックイン

チェックインとして、「呼ばれたい名前」「居住エリア」「前回からの変化(初めての方は今の気持ち)」についてグループ内で自己紹介を行った。

■第1ラウンド(テーマC「食と製品」、B「住まいとエネルギー」)

(3) グループワーク①:テーマC,Bに分かれて「統合案」のブラッシュアップ

前半では、「統合案」の中のテーマC,Bについての要検討箇所(青字コメント)について、これまでの話し合いを振り返りながら検討を行なった。時間があれば、テーマや小見出しなども検討し、最終的には検討の結果(特に、修正文案)をA4用紙に記載した。

後半では、前半で検討した箇所のうち、2グループ以上で修正・変更した点があれば、その結果についてすり合わせを行ない、その結果をA4用紙に記載した。

(4) 全体共有、質疑応答

テーマごとに修正・変更した点を全体へ紹介し、その後質疑応答や意見交換を行い、提案内容の最終化を行った。

■第2ラウンド(テーマA「移動」、D「情報・教育」)

(5) グループワーク②:テーマA,Dに分かれて「統合案」のブラッシュアップ

前半では、「統合案」の中のテーマA,Dについての要検討箇所(青字コメント)について、これまでの話し合いを振り返りながら検討を行なった。時間があれば、テーマや小見出しなども検討し、最終的には検討の結果(特に、修正文案)をA4用紙に記載した。

後半では、前半で検討した箇所のうち、2グループ以上で修正・変更した点があれば、その結果についてすり合わせを行ない、その結果をA4用紙に記載した。

(6) 全体共有、質疑応答

テーマごとに修正・変更した点を全体へ紹介し、その後質疑応答や意見交換を行い、提案内容の最終化を行った。

(7)横断的テーマについての説明と全体ディスカッション

第3回の話し合いの中で出された提案の中で、A・B・C・Dの4つの分野に収まりきらないものを「横断的なテーマ」として統合案に記載することが説明された。それらの提案内容をふまえた統合文案については全体で検討する時間が取れなかったことから、会議終了後アンケートの形で意見募集することとした。また、目次の表記についてもB案を提示・説明し、意見はアンケートで集めることとした。市民から出された意見は事務局及び実行委員会で検討し、あらためて提案した文案を「市民によるチェックの会」で検討し確定することが説明された。

■第3ラウンド(A~D混合グループ「横断的テーマ」)

(8)チェックイン:「いちおしのアイデア」の紹介

A~D混合のグループ内で、各自が担当した分野(A~D)の「取り組みアイデア」のうち、他の参加者にも参加してもらいたいと思う「いちおしのアイデア」について、各自ふせんに書き出し、グループ内で共有を行なった。

(9)ガイダンス:第4回会議終了後のスケジュールの説明

提案の完成に向けた今後の流れについて、提案の最終化、「脱炭素で住みよいちがさき」のイメージのイラスト化、冊子の作成、市長への手交等のプロセスと、それぞれの取り組みへの参加市民募集の説明がなされた。また、他の地域(厚木、逗子・葉山、青葉)での市民会議終了後のフォローアップ活動について、紹介が行われた。

(8)グループワーク③:提案をかたちにするための取り組みについて

「提案をかたちにするために取り組んでみたいこと」を各自ふせんに書き出し、グループ内で共有を行なった。また、その中でこの会議の場で参加者へ呼びかけたい・紹介したい取り組みがあればA4用紙に書き出した。例として「市民会議終了後もつながりを育ていけそう」「提案の実現に向けて盛り上がっていけそう」と感じるアクションはぜひ共有していただくよう呼びかけた。

(9)全体共有

グループワーク3の内容のうち、「この会議の場で参加者へ呼びかけたい・紹介したい取り組み」について、提案者から1分程度で全体への共有が行われた。共有された内容は以下の通りである。

呼びかけたい取り組み
ちがさき市民会議オリジナルのエコバッグ作成 オリジナルエコバッグを作る。今回の市民会議の参加者が使用したり、カフェや観光協会においても販売してもらい、脱炭素活動の周知や、活動の盛り上がりを他の市民にも広げる。市民会議のイラストを絵柄にするのがいいのではないか。
ちがさき市民会議の参加者が集うLINEグループ 希望者が参加するLINEグループグループを作る。その中で交流を続けると共に、グループの中で提案された「やってみたいこと」をイベントにしてみるなど、今後の継続的な活動にもつながる。
参加者から希望者を募り「脱炭素キャンプ」を実施

参加者同士顔と名前が一致していないので、もう少し交流を深められる場としてキャンプを実施。本会議で議論したことを継続・実践していくような場にしたい。キャンプの中で地産地消のものを試したり、便利だと思った脱炭素の実践を試してみたり、試行錯誤の場にするこてより良い住みやすい茅ヶ崎を追求する。柳島のキャンプ場での実施を検討中。また、キャンプの協賛として、脱炭素に関連するソーラーパネル関連の企業などにも参加してもらえば、ソーラーパネルの設置の業者などについて知ったり、親しみを持つ場にもなる。

紹介したい取り組み

汐見台小学校の屋上稲作の取り組み

汐見台小学校では校舎の屋上で子供たちがお米を育てている。そのお米を収穫し、給食に使用して子供達が食べている。脱炭素における教育の実例。

(10) チェックアウト

全体ファシリテーターより、全4回の流れの中の今回の位置付け(「脱炭素ちがさき」の提案のブラッシュアップ・最終化)が改めて共有され、終了後の流れについて各ステップの詳細な説明がなされた。また、チェックアウトでは、全4回の市民会議に参加してみた感想を各グループ内で共有した。

(11) 閉会の挨拶

柳下元邦氏(茅ヶ崎市環境部環境政策課課長)

本会議における参加者の皆様の熱心なディスカッションに対し感謝を述べると共に、参加者の皆様自身が議論の中で述べられた自治会や事業者の一員でもあること、その一部であることを心に留め、「You」ではなく「We」の意識を持ちながら、主体的に活動に取り組んでいただくことへの期待を述べた。さらに、会議参加者がその熱意を周囲に伝えることでこの熱が広がっていくことを期待すると述べた。最後に、本会議にエントリーした日から本日まで、脱炭素問題について真摯に考え続けてきた参加者の皆様に、感謝と労いの意を表した。

古知屋恵子氏(脱炭素ちがさき市民会議実行委員)

生活クラブの活動では、消費者がリユースやリサイクル、ごみ削減の仕組みを事業者とともに作り支えてきたが、まだそのような意識が浸透していない場所や、環境の問題よりも他のことを優先する場所が存在することへの課題を共有した。消費者としての立場にいる市民が「お得」というメリットだけを追うのではなく、環境を守ることも考慮して商品やお店を選んでいく、時には商品やサービスを一緒に作っていくことが最終的には消費者自身のためにもなると述べ、今後も市民の皆様と共に環境への取り組みを進めていく意気込みと期待を述べた。

佐藤良三氏(脱炭素ちがさき市民会議実行委員)

本会議では参加者の皆様から100を超えるアイデアを提案いただいたことに触れ、参加者の積極的な参加とその成果を称えた。自らが定年後に森の再生活動に参加することでコミュニティを広げた経験に触れ、参加者の皆さんにもコミュニティを広げる場として、本市民会議での出会いを大切にしていきたいと述べた。会議終了後も交流を続ける中で、提案されたアクションを具体的な形にし、活動を発展させていくことに期待を表した。最後に、その活動が将来、脱炭素で住みよい茅ヶ崎につながることに期待を込めると共に、参加者への感謝と会議への尽力を労い、閉会宣言とした。

最後に、1月中旬のフォローアップの会の予告がされた後、全体の記念撮影を行い閉会となった。